

伊集院 敦

### 李元徳教授の講演へのコメント

・日韓関係悪化の背景を的確に分析し、今後の課題やビジョンについて重要な視点を提供する内容だ。米中戦略競争が激化する中、日韓は多層的かつ多層的な協力を推進する方向に進むことが望ましいとの主張に同意する。

・問題は李元徳教授が示した「21世紀の日韓関係の未来ビジョン」を実現するための手順だ。「東アジアの平和・繁栄」に向け、政治経済など各分野の「全面的協力」が実現できれば理想的だが、日韓の内政などを考えると短期間のうちに両国政府が包括的な合意を形成するのは容易ではない。

・李元徳教授が提示した「関係改善を促す内外環境」の中では、バイデン政権の「日韓関係改善への外圧強化」が最も確かで、計算できる要素かもしれない。米中の戦略的競争は長期にわたる見通しだ。先の日米首脳会談と米韓首脳会談は共通のアジェンダが多く、今後の日韓協力の可能性を感じさせるものだった。

・しかし、焦点の対中政策は日韓に限らず、国ごとにスタンスが異なる。西側先進国で全面的な「対中大連合」を構くのも容易ではなく、安保、技術、サプライチェーン、人権など個別テーマごとにオーダーメイドや特定目的の連帯を組織する方が現実的だ。日韓もそうした取り組みを利用しながら戦略の共有を図ったらどうか。日韓は東アジアに位置するミドルパワー同士、国際的なルール形成や、米中対立の地域への悪影響回避などでも協力できるだろう。